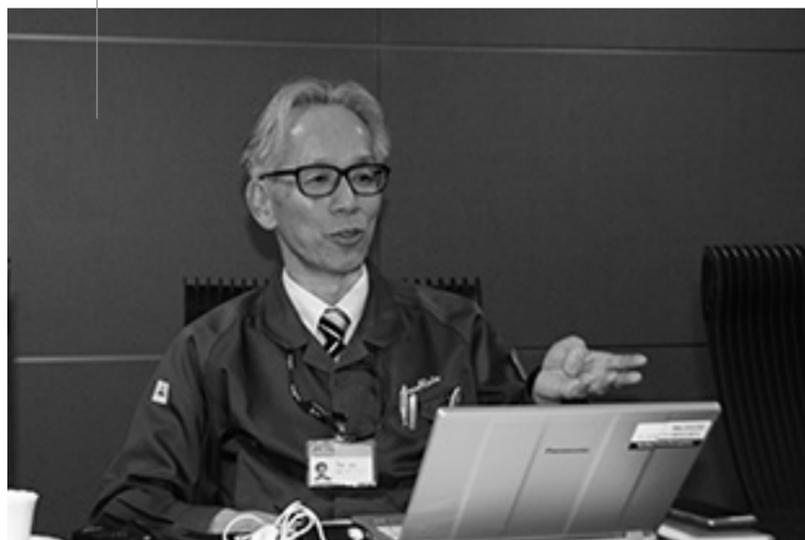


トップシェア支える 人づくり 主体性活かして「シン化」図る

株式会社富山村田製作所
代表取締役社長

萱原 史也 氏



世界トップシェアの部品をいくつも世に出す村田製作所（本社・長岡京市）グループの一翼を担う、富山での概要を教えてください。

圧電セラミックス応用製品の開発・量産拠点として1982年に設立し、84年に生産を開始しました。現在、セラミックスに力を加えることで電圧が発生する性質を利用した発振子「セラロック®」や、ショックセンサ、また電気を加えると伸び縮みする性質を利用した

アクチュエータを製造しています。

セラロック®は電子回路の動作基準となるクロック信号を作るもので、自動車の電子機器などにも多く使われ、世界シェアは75%です。ショックセンサは主にパソコンのハードディスク（HDD）の衝撃を感知するのに使われ、HDD向けのシェアは100%。アクチュエータはHDDの書き込みヘッドの位置を微調整する装置です。

また、セラミックスの積層技術

を応用し、樹脂多層基板「メトロサーク®」の製造も2012年から行っています。フレキシブルなため、スマホやタブレット端末などの狭いスペースに電子回路をはわせる用途に使われます。この分野も最近では競合が出てきましたが、今後飛躍する5G分野での事業拡大を期待しています。

—「未来に一番乗り」めざす—

会社ビジョンに「未来に一番乗り」を掲げていらっしゃいます。

村田製作所を創業した村田昭は創業10周年の1954年に社是を作りました。「技術を練磨し 科学的管理を實踐し 独自の製品を供給して… 会社の発展と 協力者の共栄をはかり これをよるこび…」というもので、現在もグループの理念になっています。CS（顧客満足）、ES（従業員満足）を価値観の最上位に置き、その中で技術を練磨し、品質だけでなく経理やサプライチェーンなどの仕組みも含めて科学的な管理を實踐し、世の発展に貢献していく。創業初期からCSRを大切にしている会社です。

富山村田でもこの理念の下、ありがたい姿として2005年に「未来に一番乗り」と掲げました。技術力を高め、お客様の期待に応え、独自の技術、製品を世の中に誰よりも早く、安定して供給できる企業風土を構築したいという思いが込められています。

具体的にはどのような取り組みをされているのでしょうか。

運営方針として、新しい「事業づくり」、安定した「モノづくり」、そしてそれらを支える「基盤づくり」の3本柱を掲げています。

開発部隊が持つ要素技術を組み合わせることで、市場の要求にマ

ッチした新しい商品やサービスを作ろうというのが「事業づくり」です。最近では、新・深・進等の「シン化活動」と題し、従来とは離れた考え方を取り入れ、新しい領域にマッチする商品開発を進めようと社内に投げかけています。

2つ目は、市場の要望に応えられる「モノづくり」力の強化に取り組んでいます。特に最近では、新規事業の立ち上げから量産化するまでにもものすごく早いスピードを求められます。昨年、当社のアクチュエータが「富山県ものづくり大賞」優秀賞を頂きました。これは、HDDの大容量化に向けて部品の高精度化、小型化が求められる中で従来の3分の1のサイズを実現したのですが、開発から量産まで約1年でこぎ着けました。

そして、働き方改革にも通じますが、永続的に事業を運営できる「基盤」を整備しています。

働き方改革の取り組みについて。

働き方改革の基本は楽しく仕事ができることですが、富山の人は真面目で一人で仕事を抱え込みがちと感じます。QCサークルをはじめ、チームで支え合う環境づくりを心掛けています。

社是にもあるように、50年以上前から社員のやりがいを大切に取組んでいる企業グループです。当社でも最近では女性が育児休業中に昇格試験を受けられるようにし

たり、男性の育児休業の取得者が増加したり、色々な立場の人が活躍できるよう、周りがサポートしやすい風土になってきています。

そうしたお陰かここ数年、大学新卒者の3年離職率が0%です。

—総合力発揮し5Gに対応—

昨年4月に「モノづくり人材育成センター」を開設されました。

メトロサークの製造が始まったこの3年間で社員が600人以上増え、社是の理解やモノづくりの基礎をきちんと教育する必要性が出てきました。高岡市二上地区に設置したので、当社が統括する氷見村田製作所とハクイ村田製作所からも利便性の良い立地です。

設備を効率的に稼働するための維持やメンテナンスの教育を最優先に、「保全道場」で分解・組立を体験します。また、「安全体感道場」として設備に潜む危険や回避行動を確認する研修も行っています。

そして、新たに製造監督者向けの「製造道場」を立ち上げ、「現場改善士」を養成しています。現場の問題点の改善はこれまで、専門のIE担当者がやっていました。しかし、最近の進歩の早さに対応するには、現場の監督者が無駄や無理を検知し、タイムリーに改善していかなければいけません。

村田グループでは教育体系が充



クリーンルームの製造現場で

実していますが、さらに保全技術や製造監督の改善スキルの向上などに、独自で取り組んでいます。

現場での人材育成はどのように？

QCサークルに力を入れていますが、以前から行っていましたが、成果を求めるうちにやらされ感がありました。今は、成果よりもメンバーのやる気や主体性を重視する運営方式に切り替えています。

負担が大きいリーダーは定期的に交代し、スタッフ系社員もアドバイザーとして関わるようにしたところ、自主性が引き出されてきました。2017年の全日本選抜QCサークル大会で金賞を受賞するなど、良い結果が出てきました。

今後の展望をお願いします。

5Gの実用化やAIの普及で多くの電子部品が使われます。当然競争も激しくなりますが、開発から量産まで実現する総合力を発揮し、いち早く市場にマッチした商品を送り出していきます。

座右の銘を教えてください。

田坂広志氏の著書『仕事の思想』の中に、「未来：後世を待ちて今日の務めを果たすとき」という章があります。今を一生懸命に生きた先に、未来が付いてくるという、この言葉を大切にしています。

会社概要

株式会社富山村田製作所

設立：1982(昭和57)年10月
所在地：富山市上野345番地
資本金：4億5,000万円
事業内容：圧電セラミックスをベースとした電子部品（圧電セラミックス応用製品）の開発・設計・生産
従業員数：1,970名(2019年9月現在)
関連会社：(株)村田製作所、(株)ハクイ村田製作所、(株)氷見村田製作所
URL：https://www.murata.com/ja-jp/group/toyamamura